

□特 集

平成 23 年人口動態統計（概数）の概要

合計特殊出生率が 0.03 ポイント減少

—全国は前年と変わらず—

悪性新生物（がん）、心疾患、肺炎の死亡率が増加

—死因順位の上位 3 疾患が大幅に増加—

自然減少は過去最大

—出生数の減少に加え、死亡数も増加したため、過去最大の減少—

府健康福祉総務課

はじめに

人口動態統計は、出生・死亡・婚姻・離婚及び死産の 5 種類の「人口動態事象」について、その実態を把握し、人口及び厚生労働行政施策の基礎資料を得ることを目的として実施されています。

出生、死亡、婚姻及び離婚については、「戸籍法」による届出書から、死産については、「死産の届出に関する規程」による届書等から、その届出を受けた市区町村長が調査票を作成します。

これらの調査票は、保健所長、都道府県を經由し、厚生労働省に提出されます。

厚生労働省では、これらの調査票の毎月分及び年間分を集計して、人口動態統計月報（概数）、人口動態統計年報として公表しています。

この概要は、平成 23 年 1 月 1 日から 12 月 31 日までの間における京都府分について取りまとめたもので、数値は概数です。

1 出 生

—出生数・率とも前年より減少—

平成 23 年の出生数は 2 万 707 人で前年より 527 人減少しました。

出生率（人口千対）は 8.0 で、前年より 0.2 ポイント低下しました。

出生数の推移をみると、第 1 次ベビーブーム期（昭和 22 年～24 年）の、団塊の世代が誕生した時期は 5 万人台で推移していましたが、その後急激に減少し、昭和 32 年には 2 万 6,688 人まで低下しました。その後、昭和 41 年（ひのえうまの年）を除いて増加に転じ、昭和 48 年には第 2 次ベビーブーム期のピークを迎えましたが、以後減少傾向が続いています。

昨年は 2 年ぶりに増加に転じましたが、ふたたび減少に転じています。（表 1、図 1）

表 1 人口動態総覧、対前年比較

	実 数				率		率（全国）		
	平成 23 年	平成 22 年	増減	増減割合(%)	平均発生間隔	平成 23 年	平成 22 年	平成 23 年	平成 22 年
出 生	20,707	21,234	△ 527	△ 2.5	25 分 23 秒	8.0	8.2	8.3	8.5
死 亡	24,732	23,714	1,018	4.3	21 分 15 秒	9.5	9.1	9.9	9.5
（乳児死亡）	40	52	△ 12	△ 23.1	219 時間	1.9	2.4	2.3	2.3
（新生児死亡）	16	28	△ 12	△ 42.9	547 時間 30 分	0.8	1.3	1.1	1.1
自 然 増 減	△ 4,025	△ 2,480	△ 1,545	62.3	…	△ 1.6	△ 1.0	△ 1.6	△ 1.0
死 産	476	482	△ 6	△ 1.2	18 時間 24 分	22.5	22.2	23.9	24.2
婚 姻	12,901	13,664	△ 763	△ 5.6	40 分 44 秒	5.0	5.3	5.2	5.5
離 婚	4,713	4,964	△ 251	△ 5.1	1 時間 51 分	1.82	1.91	1.87	1.99

注 1 平成 22 年は確定数

2 出生・死亡・自然増減・婚姻・離婚率は日本人人口千対、乳児・新生児死亡率は出生千対、死産率は出産（出生＋死産）千対

3 算出に用いた京都府の人口は、平成 23 年 = 2,590,000 人（「平成 23 年 10 月 1 日現在推計人口（日本人）」）

4 自然増減：出生数から死亡数を減じたもの

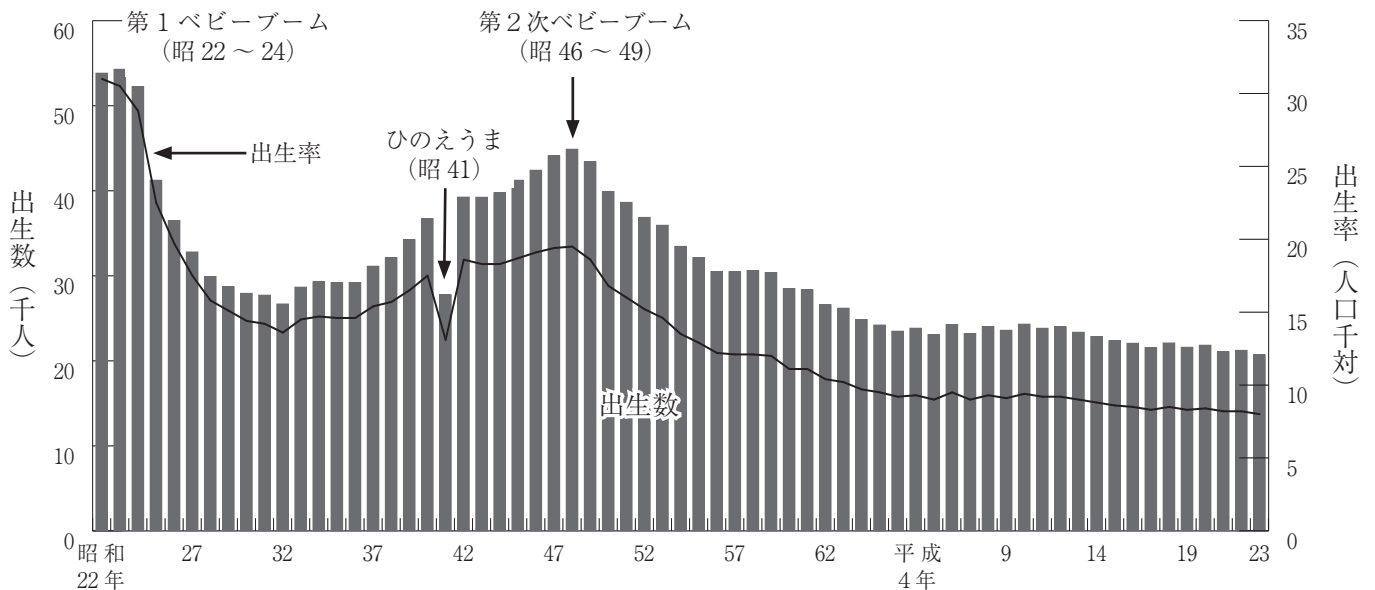
5 乳児死亡：生後 1 年未満の死亡数

6 新生児死亡：乳児死亡のうち、生後 4 週未満の死亡数

7 死産：妊娠満 12 週以後の死産の出産

8 平均発生間隔：1 件当たりの事象発生が、どれだけの時間間隔をもって発生したかを表したもの

図1 出生数・出生率の年次推移



合計特殊出生率は 1.25

一前年より 0.03 ポイント減少
全国は前年と変わらず

平成 23 年の出生率を母の年齢階級別にみると、最も出生率が高かったのは、30～34 歳の層で、出生率は 93.5（出生数 7,573 人）となりました。

30～34 歳の出生率は、昭和 53 年以降上昇傾向にあり、平成 12 年には、25～29 歳の層を上回り、その後も出生数・率とも第 1 位となっています。

第 2 位は、25～29 歳の層で、出生率は 74.4（出生数 5,582 人）となりました。25～29 歳は昭和 47 年（出生率 213.8）をピークに低下傾向が続いています。

第 3 位は 35 歳～39 歳の層で、出生率 47.8（出生数 4,779 人）となり、上昇傾向が続いています。

第 4 位は 20～24 歳の層で出生率 20.7（出生数 1,675 人）と、4 年振りに減少に転じています。

(図 2)

図2 母の年齢階級別出生率の年次推移 (人口千対)

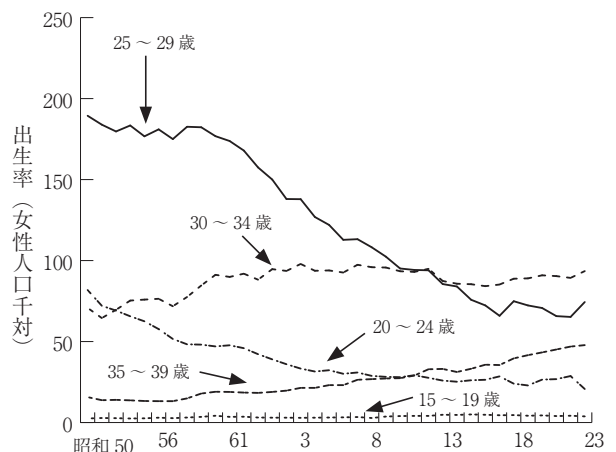


表 2 合計特殊出生率の推移

年次	京都府	全国
昭和 40 年※	2.02	2.14
45 ※	2.02	2.13
50 ※	1.81	1.91
55 ※	1.67	1.75
60 ※	1.68	1.76
平成 2 年※	1.48	1.54
7 ※	1.33	1.42
12 ※	1.28	1.36
17 ※	1.18	1.26
18	1.19	1.32
19	1.18	1.34
20	1.22	1.37
21	1.20	1.37
22 ※	1.28	1.39
23	1.25	1.39

※は国勢調査年

合計特殊出生率とは、その年の 15 歳から 49 歳までの女性の年齢別出生率を合計した値で、その年の女性の年齢別出生傾向が将来も変わらないと仮定した場合、1 人の女性が一生の間に生む平均の子供の数に相当します。

2 死 亡

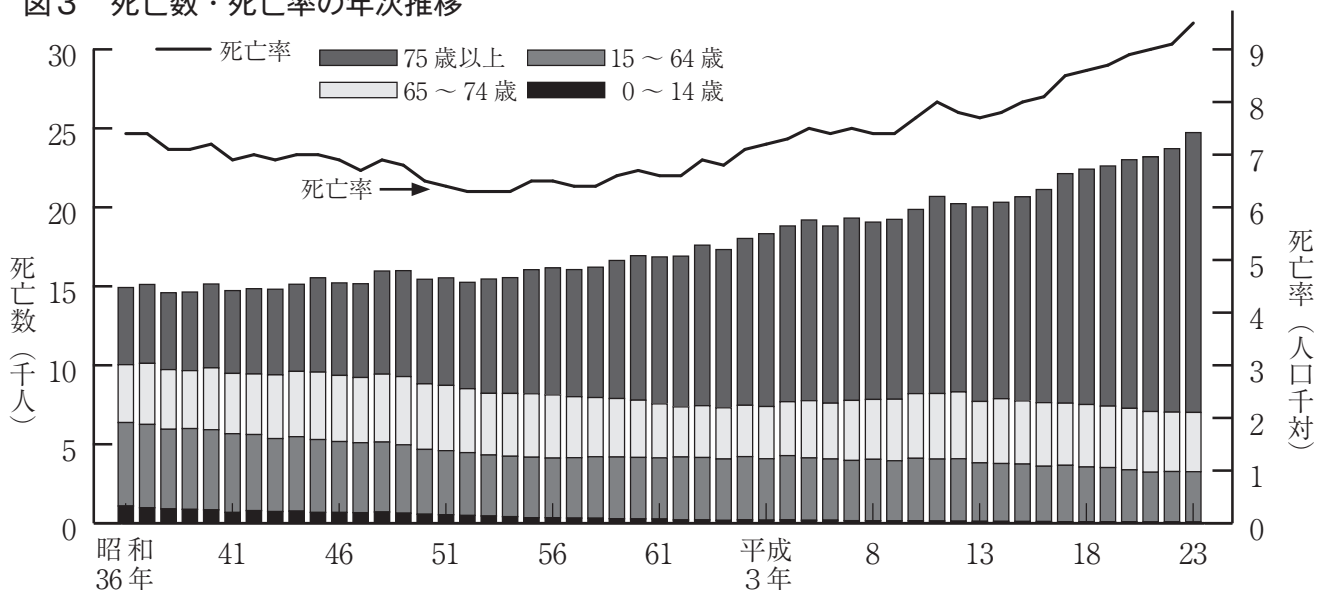
—死亡数は引き続き増加傾向—

平成 23 年の死亡数は 2 万 4,732 人で、前年より 1,018 人増加し、死亡率（人口千対）は 9.5 となり、前年より 0.4 ポイント上昇しました。（表 1）

死亡数の推移をみると、昭和 44 年以降 1 万 5 千人～1 万 9 千人台で推移していましたが平成 11 年以降は 2 万人台になり、以後ゆるやかな増加傾向が続いています。

年齢別死亡数では、0～74 歳の世代は前年を下回りましたが、75 歳以上の世代は増加しました。死亡率は昭和 35 年（死亡率 7.7）以降低下傾向にあり、52～54 年に 3 年連続 6.3 と戦後最低を記録した後、ゆるやかな上昇を続け、平成 13 年（同 7.7）以降は増加傾向が顕著になり、平成 23 年は 9.5 となりました。（図 3）

図 3 死亡数・死亡率の年次推移



3 死 因

—悪性新生物、心疾患、肺炎の死亡率が増加—

死因順位の第 1 位は、悪性新生物（がん）で、4 年連続で増加し、平成 23 年の死亡数は 7,415 人で、前年より 104 人増加、死亡率（人口 10 万対）は 286.3 で、前年より 4.4 ポイント上昇しました。悪性新生物による死亡率が総死亡数に占める割合は 30.0% でした。

第 2 位は心疾患の 4,299 人で、こちらも 4 年連続で増加し、前年より 199 人増加、死亡率は 166.0 で前年より 7.9 ポイント上昇しました。

第 3 位は肺炎で、平成 23 年の死亡数は前年より 257 人増加の 2,540 人、死亡率は 10.1 ポイン

ト上昇し 98.1 となっています。

第 4 位は脳血管疾患の 2,124 人で、死亡率は 82.0 となり、平成 8 年以降減少傾向にあります。

第 5 位は、老衰で、死亡数は 913 人、6 位は不慮の事故で、死亡数は 553 人でした。自殺は、死亡数が 520 人となり、前年より 64 人減少しました。

また、悪性新生物、心疾患及び脳血管疾患の 3 大生活習慣病による死亡が総死亡数に占める割合は、56.0% となりました。（表 3、図 4）

—悪性新生物（がん）死因トップは男女ともに「肺」—

悪性新生物（がん）の主な部位別死亡率（人口 10 万対）をみると、第 1 位は前年に引き続き「肺」で死亡率は 60.6、前年より 1.5 ポイント上昇しました。

第 2 位は、平成 7 年までトップの「胃」で、死亡率は 39.7、前年より 0.4 ポイント上昇しました。

第 3 位は「大腸」で死亡率は 36.6 となり、前年と変わりませんでした。第 4 位は「肝」で死亡率は 25.1 で、前年より 1.5 ポイント低下しました。

また、肺、胃、大腸の上位 3 疾患で悪性新生物死因総数の 47.8% を占めています。（図 5）

表3 死因順位

死因順位	平成23年	死亡数(人)	死亡率	死亡総数に占める割合(%)	平成22年	死亡数(人)	死亡率	全国(23年)	死亡数(人)	死亡率
第1位	悪性新生物	7,415	286.3	30.0	悪性新生物	7,311	281.9	悪性新生物	357,185	283.1
2	心疾患	4,299	166.0	17.4	心疾患	4,100	158.1	心疾患	194,761	154.4
3	肺炎	2,540	98.1	10.3	肺炎	2,283	88.0	肺炎	124,652	98.8
4	脳血管疾患	2,124	82.0	8.6	脳血管疾患	2,158	83.2	脳血管疾患	123,784	98.1
5	老衰	913	35.3	3.7	老衰	783	30.2	不慮の事故	59,596	47.2
6	不慮の事故	553	21.4	2.2	不慮の事故	622	24.0	老衰	52,207	41.4
7	自殺	520	20.1	2.1	自殺	584	22.5	自殺	28,874	22.9
8	腎不全	500	19.3	2.0	腎不全	550	21.2	腎不全	24,493	19.4
9	慢性閉塞性肺疾患	414	16.0	1.7	慢性閉塞性肺疾患	324	12.5	慢性閉塞性肺疾患	16,620	13.2
10	肝疾患	268	10.3	1.1	大動脈瘤及び解離	261	10.1	肝疾患	16,362	13.0

注 死亡率は人口10万対である。

図4 主要死因別死亡率の年次推移

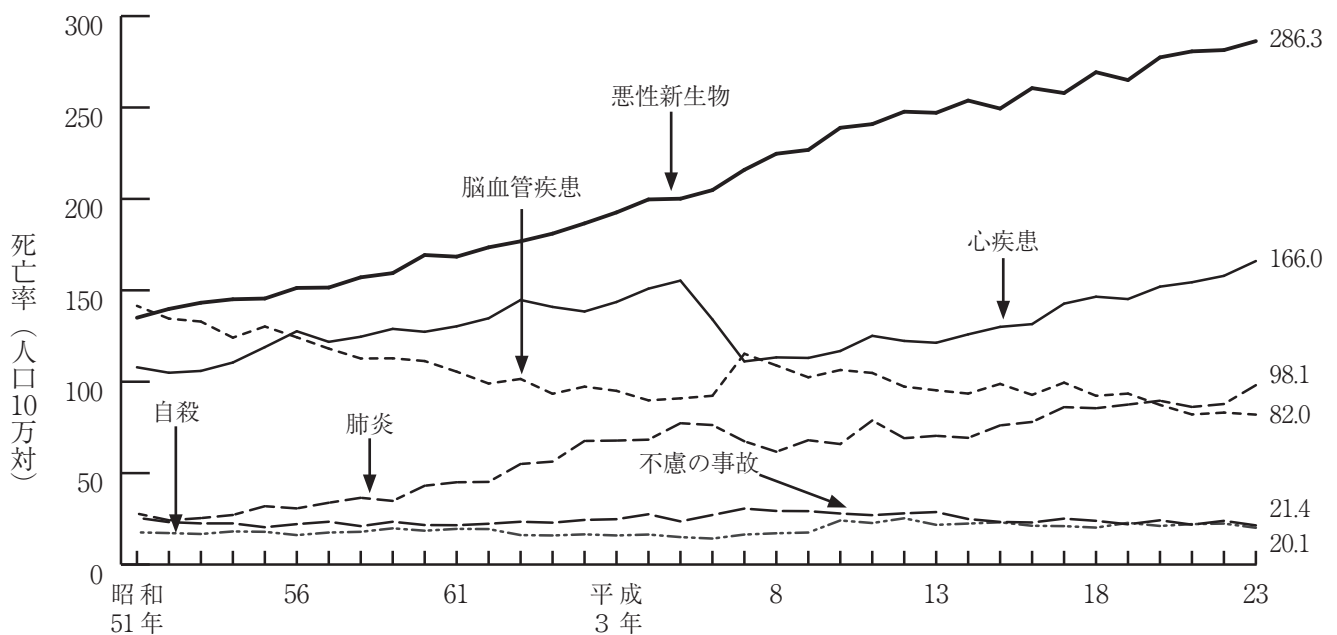
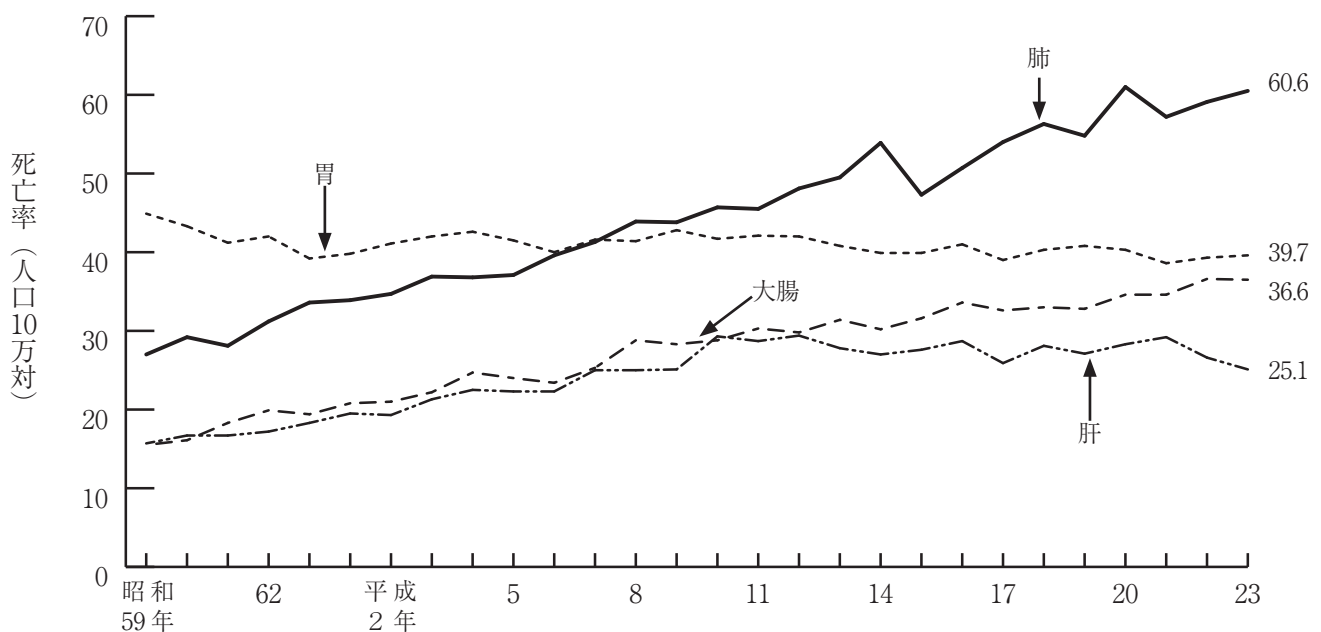


図5 悪性新生物（がん）の主な部位別死亡率の年次推移



男女別死亡率をみると、図6にみるとおり、男の死亡率（男人口10万対）は、「肺」が平成3年以降第1位で、23年は88.9となり、前年より4.7ポイント上昇しました。

第2位は「胃」で54.2となり、前年より2.6ポイント上昇しました。

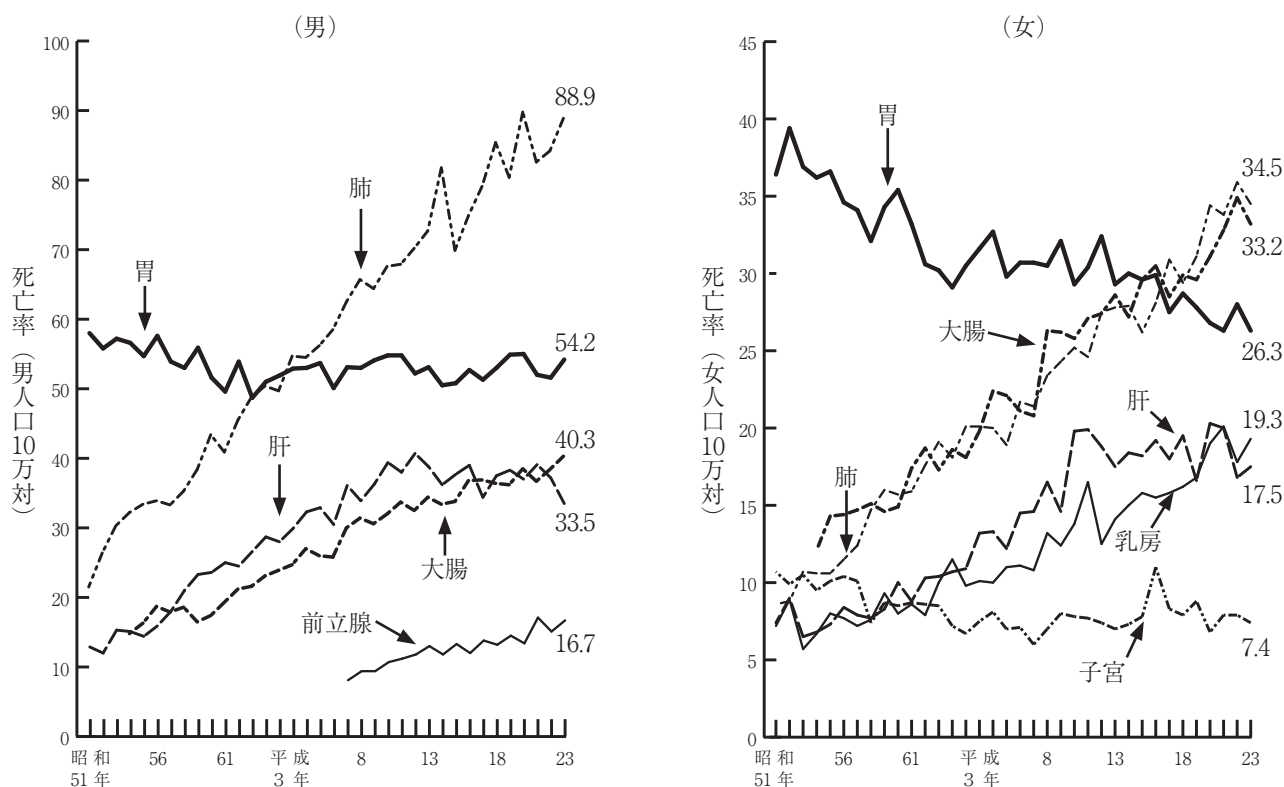
第3位は「大腸」で40.3、第4位は「肝」で33.5となりました。

女の死亡率（女人口10万対）は、第1位は「肺」で34.5となりましたが、1.4ポイント低下しました。第2位は「大腸」で33.2、第3位は「胃」で26.3となりました。

「肺」と「大腸」は2年振りに低下しました。

「乳房」は平成3年以降ひきつづき増加傾向にあります。（図6）

図6 悪性新生物（がん）の性別・主な部位別死亡率の年次推移



注1 文中、図5及び図6において肺とは、気管、気管支及び肺の悪性新生物である。
 2 文中、図5及び図6において大腸とは、結腸と直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物である
 3 文中、図5及び図6において肝とは、肝及び肝内胆管の悪性新生物である。
 4 図6において大腸の昭和53年以前の数値は、旧厚生省で集計されていないため不明である。
 5 図6において前立腺の平成7年以前の数値は、旧厚生省で集計されていないため不明である。

4 乳児死亡・新生児死亡

一乳児死亡率、新生児死亡率はともに低下

平成23年の乳児死亡数は40人で、前年より12人減少し、乳児死亡率（出生千対）は1.9で、前年より0.5ポイント低下しました。新生児死

亡数は16人で、前年より12人減少し、新生児死亡率（出生千対）は0.8で前年より0.5ポイント低下しました。（表1）

5 自然増減

一過去最大の減少数一

平成23年の出生数から死亡数を減じた自然増減数は、前年より1,545人減少の、マイナス4,025人となり、明治32年に現在の形で統計を開始してから、初めて人口減となった平成17年以降減少が続いており、平成23年はこれまでで

最大の減少数となりました。自然増減数は、図1の出生数の減少傾向、図3の死亡数の上昇傾向の双方を反映して低下傾向にあります。

自然増減率（人口千対）はマイナス1.6で、前年より0.6ポイント低下しました。（表1）

6 死 産

—死産率は長期的に低下傾向—

平成 23 年の死産数は 476 胎で前年より 6 減少、死産率（出産千対）は 22.5 と、前年より 0.3 ポ

イント上昇しましたが、死産率は長期的に低下傾向にあります。（表 1）

7 婚 姻

—平均初婚年齢夫は 30.9 歳、 妻は 29.3 歳

晩婚化 緩やかに進行—

平成 23 年の婚姻件数は 1 万 2,901 組で前年より 763 組減少し、婚姻率（人口千対）は 5.0 で、前年より 0.3 ポイント低下しました。

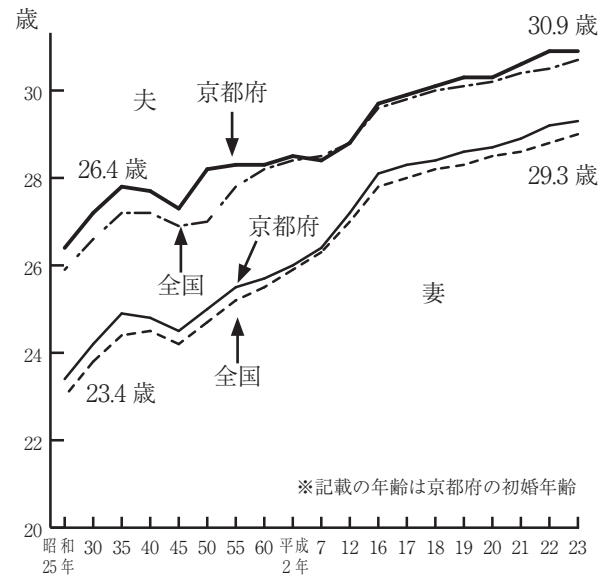
（表 1）

また、平均初婚年齢は、夫 30.9 歳、妻 29.3 歳で、妻が 0.1 歳前年より上昇しました。

平均初婚年齢の推移をみると、昭和 25 年以降は上昇傾向が続き、昭和 25 年（夫 = 26.4 歳、妻 = 23.4 歳）と比べると夫は 4.5 歳、妻は 5.9 歳上昇しており、男女とも晩婚化が進んでいます。

（図 7）

図 7 平均初婚年齢の推移



8 離 婚

—離婚件数、離婚率ともに減少—

平成 23 年の離婚件数は 4,713 組で、前年より 251 組減少し、離婚率（人口千対）は 1.82 となり、前年より 0.09 ポイント低下しました。

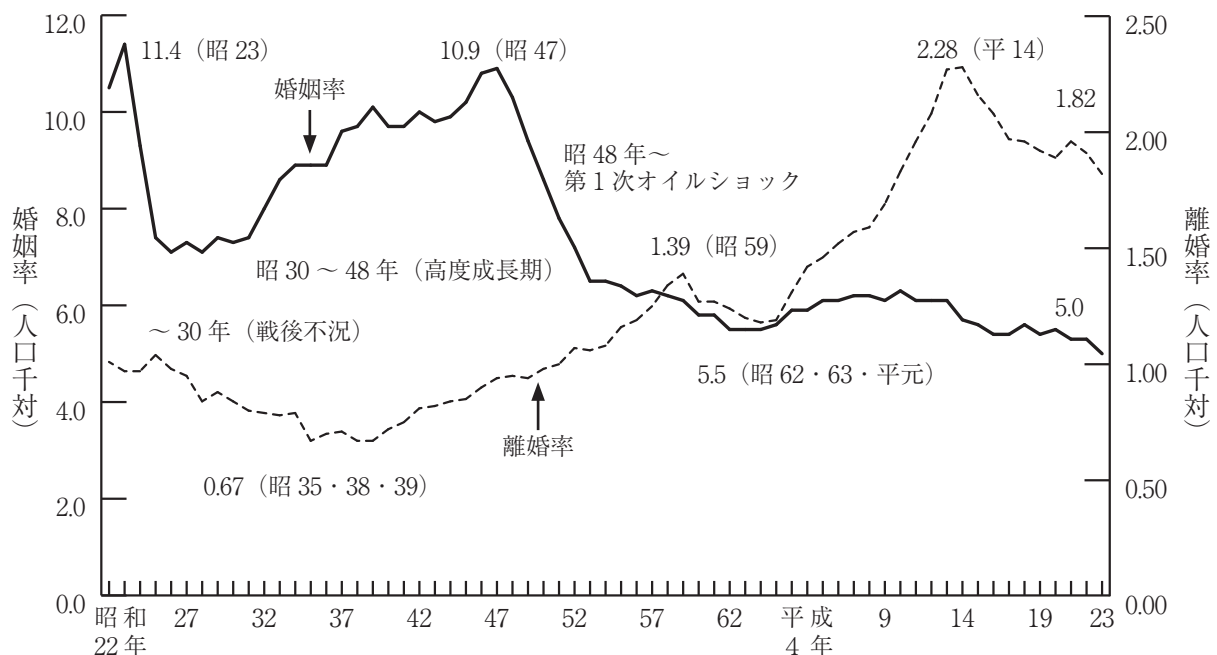
いったん増加した離婚率は、昨年に続き減少しました。（表 1）

離婚率の推移をみると昭和 35 年、38 年、39 年

に戦後最低（離婚率 0.67）となった後上昇し、59 年以降低下していましたが、平成 2 年から再び上昇に転じ、平成 14 年には過去最高の 2.28 を記録し、その後は減少傾向となっています。

（図 8）

図 8 婚姻率・離婚率の年次推移



第1表 人口動態（概数）保健所、市町村別（平成23年）

区 分	出生数			死亡数			乳 児 死亡数	新生児 死亡数	死産数	婚 件	姻 数	離 件	婚 数	自 然 増加数
	総数	男	女	総数	男	女								
総 数	20,707	10,535	10,172	24,732	12,540	12,192	40	16	476	12,901	4,713	△ 4,025		
京 都 市	11,252	5,756	5,496	13,622	6,876	6,746	25	10	262	7,880	2,773	△ 2,370		
その他の市町村	9,455	4,779	4,676	11,110	5,664	5,446	15	6	214	5,021	1,940	△ 1,655		
乙訓保健所	1,334	680	654	1,176	601	575	1	1	22	740	237	158		
向日市	496	249	247	446	217	229	0	0	7	245	104	50		
長岡京市	706	368	338	606	316	290	0	0	13	414	100	100		
大山崎町	132	63	69	124	68	56	1	1	2	81	33	8		
山城北保健所	3,599	1,859	1,740	3,605	1,872	1,733	5	3	78	1,822	773	△ 6		
宇治市	1,574	816	758	1,497	750	747	2	1	35	800	371	77		
城陽市	578	293	285	691	363	328	1	1	10	296	113	△ 113		
八幡市	619	311	308	611	328	283	0	0	22	345	151	8		
京田辺市	574	289	285	450	236	214	2	1	8	219	80	124		
久御山町	131	73	58	152	85	67	0	0	1	79	25	△ 21		
井手町	57	36	21	106	55	51	0	0	2	44	18	△ 49		
宇治田原町	66	41	25	98	55	43	0	0	0	39	15	△ 32		
山城南保健所	1,069	547	522	870	460	410	5	1	20	493	185	199		
木津川市	727	364	363	518	270	248	5	1	12	322	123	209		
笠置町	6	0	6	22	9	13	0	0	0	8	1	△ 16		
和束町	22	10	12	63	36	27	0	0	2	18	4	△ 41		
精華町	305	168	137	223	122	101	0	0	5	136	50	82		
南山城村	9	5	4	44	23	21	0	0	1	9	7	△ 35		
南丹保健所	1,023	513	510	1,451	750	701	1	0	29	581	240	△ 428		
亀岡市	717	368	349	754	403	351	1	0	21	382	177	△ 37		
南丹市	237	117	120	458	223	235	0	0	7	149	47	△ 221		
京丹波町	69	28	41	239	124	115	0	0	1	50	16	△ 170		
中丹西保健所	791	379	412	924	475	449	0	0	20	432	156	△ 133		
福知山市	791	379	412	924	475	449	0	0	20	432	156	△ 133		
中丹東保健所	992	471	521	1,618	792	826	1	0	34	607	216	△ 626		
舞鶴市	772	371	401	1,062	514	548	0	0	26	468	162	△ 290		
綾部市	220	100	120	556	278	278	1	0	8	139	54	△ 336		
丹後保健所	647	330	317	1,466	714	752	2	1	11	346	133	△ 819		
宮津市	119	61	58	326	155	171	0	0	0	65	19	△ 207		
京丹後市	369	185	184	771	377	394	2	1	6	201	77	△ 402		
伊根町	7	3	4	50	19	31	0	0	1	7	1	△ 43		
与謝野町	152	81	71	319	163	156	0	0	4	73	36	△ 167		

第2表 人口動態統計 実数及び率の年次推移

区 分	出生		死亡		乳児死亡		死産		婚姻		離婚		自然増加	
	実数	率 (人口千対)	実数	率 (人口千対)	実数	率 (出生千対)	実数	率 (出産千対)	実数	率 (人口千対)	実数	率 (人口千対)	実数	率 (人口千対)
昭和22年	53,828	31.0	25,686	14.8	3,705	68.8	2,429	43.2	18,294	10.5	1,750	1.01	28,142	16.2
23	54,287	30.5	19,892	11.2	2,866	52.8	2,920	51.0	20,285	11.4	1,727	0.97	34,395	19.3
24	52,248	28.8	19,638	10.8	2,058	39.4	4,313	76.2	16,916	9.3	1,765	0.97	32,610	18.0
25	41,236	22.5	17,850	9.7	2,079	50.4	4,587	100.1	13,643	7.4	1,903	1.04	23,386	12.8
26	36,493	19.7	16,341	8.8	1,804	49.4	4,452	108.7	13,168	7.1	1,813	0.98	20,152	10.9
27	32,802	17.5	15,417	8.2	1,401	42.7	3,943	107.3	13,705	7.3	1,788	0.95	17,385	9.3
28	29,907	15.8	15,562	8.2	1,237	41.4	3,672	109.4	13,388	7.1	1,591	0.84	14,345	7.6
29	28,717	15.1	14,139	7.4	1,089	37.9	3,516	109.1	14,109	7.4	1,673	0.88	14,578	7.7
30	27,943	14.4	13,797	7.1	909	32.5	3,319	106.2	14,079	7.3	1,630	0.84	14,146	7.3
31	27,724	14.2	15,081	7.7	963	34.7	3,285	105.9	14,488	7.4	1,560	0.80	12,643	6.5
32	26,688	13.6	15,549	7.9	843	31.6	3,234	108.1	15,685	8.0	1,556	0.79	11,139	5.7
33	28,665	14.5	14,356	7.3	811	28.3	3,455	107.6	17,041	8.6	1,535	0.78	14,309	7.2
34	29,282	14.7	14,610	7.3	818	27.9	3,479	106.2	17,651	8.9	1,577	0.79	14,672	7.4
35	29,194	14.6	15,265	7.7	747	25.6	3,356	103.1	17,709	8.9	1,327	0.67	13,929	7.0
36	29,213	14.6	14,866	7.4	746	25.5	3,372	103.5	17,960	8.9	1,410	0.70	14,347	7.1
37	31,129	15.4	15,080	7.4	695	22.3	3,468	100.2	19,459	9.6	1,437	0.71	16,049	7.9
38	32,108	15.7	14,555	7.1	638	19.9	3,399	95.7	19,931	9.7	1,379	0.67	17,553	8.6
39	34,258	16.5	14,613	7.1	612	17.9	3,395	90.2	20,941	10.1	1,396	0.67	19,654	9.5
40	36,703	17.5	15,109	7.2	587	16.0	3,284	82.1	20,310	9.7	1,520	0.72	21,594	10.3
41	27,755	13.1	14,732	6.9	475	17.1	2,858	93.4	20,513	9.7	1,587	0.75	13,023	6.1
42	39,254	18.6	14,813	7.0	573	14.6	2,902	68.8	21,160	10.0	1,718	0.81	24,441	11.6
43	39,240	18.3	14,868	6.9	521	13.3	2,882	68.4	21,098	9.8	1,755	0.82	24,372	11.4
44	39,750	18.3	15,135	7.0	575	14.5	2,813	66.1	21,440	9.9	1,822	0.84	24,615	11.3
45	41,235	18.7	15,577	7.0	481	11.7	2,704	61.5	22,621	10.2	1,871	0.85	35,658	11.6
46	42,413	19.1	15,279	6.9	494	11.6	2,692	59.7	24,143	10.8	2,000	0.90	27,134	12.2
47	44,107	19.4	15,208	6.7	454	10.3	2,535	54.4	24,826	10.9	2,135	0.94	28,899	12.7
48	44,885	19.5	15,995	6.9	478	10.6	2,509	52.9	23,850	10.3	2,201	0.95	28,890	12.5
49	43,438	18.6	15,986	6.8	433	10.0	2,379	51.9	21,851	9.4	2,192	0.94	27,452	11.8
50	39,921	16.8	15,460	6.5	353	8.8	2,192	52.1	20,514	8.6	2,329	0.98	24,461	10.3
51	38,636	16.0	15,544	6.4	344	8.9	2,359	57.5	28,738	7.8	2,401	1.00	23,092	9.6
52	36,870	15.2	15,260	6.3	303	8.2	1,995	51.3	17,507	7.2	2,599	1.07	21,610	8.9
53	35,943	14.6	15,464	6.3	289	8.0	1,810	47.9	16,031	6.5	2,590	1.06	20,479	8.3
54	33,464	13.5	15,553	6.3	240	7.2	1,698	48.3	16,117	6.5	2,661	1.08	17,911	7.2
55	32,139	12.9	16,059	6.5	209	6.5	1,622	48.0	15,916	6.4	2,884	1.16	16,080	6.5
56	30,498	12.2	16,174	6.5	200	6.6	1,662	51.7	15,571	6.2	2,980	1.19	14,324	5.7
57	30,493	12.1	16,059	6.4	194	6.4	1,522	47.5	15,794	6.3	3,134	1.25	14,434	5.7
58	30,627	12.1	16,214	6.4	193	6.3	1,435	44.8	15,776	6.2	3,382	1.34	14,413	5.7
59	30,390	12.0	16,637	6.6	181	6.0	1,325	41.8	15,370	6.1	3,529	1.39	13,753	5.4
60	28,479	11.1	16,942	6.6	143	5.0	1,360	45.6	14,932	5.8	3,248	1.27	11,537	4.5
61	28,358	11.1	16,864	6.6	148	5.2	1,282	43.3	14,839	5.8	3,241	1.27	11,494	4.5
62	26,603	10.4	16,912	6.6	121	4.5	1,252	44.9	14,025	5.5	3,179	1.24	9,691	3.8
63	26,192	10.2	17,608	6.9	135	5.2	1,093	40.1	14,076	5.5	3,071	1.20	8,584	3.4
平成元年	24,855	9.7	17,327	6.8	99	4.0	1,015	39.2	14,026	5.5	3,021	1.18	7,528	2.9
2	24,209	9.5	18,031	7.1	118	4.9	1,039	41.2	14,337	5.6	3,050	1.19	6,178	2.4
3	23,487	9.2	18,331	7.2	111	4.7	947	38.8	15,018	5.9	3,346	1.31	5,156	2.0
4	23,838	9.3	18,822	7.3	129	5.4	919	37.1	15,101	5.9	3,640	1.42	5,016	2.0
5	23,082	9.0	19,202	7.5	125	5.4	826	34.5	15,647	6.1	3,738	1.46	3,880	1.5
6	24,245	9.5	18,821	7.4	122	5.0	838	33.4	15,716	6.1	3,891	1.52	5,424	2.1
7	23,219	9.0	19,321	7.5	97	4.2	777	32.4	15,887	6.2	4,047	1.57	3,898	1.5
8	24,023	9.3	19,068	7.4	95	4.0	748	30.2	16,153	6.2	4,115	1.59	4,955	1.9
9	23,595	9.1	19,239	7.4	91	3.9	701	28.9	15,869	6.1	4,384	1.69	4,356	1.7
10	24,312	9.4	19,868	7.7	79	3.2	736	29.4	16,273	6.3	4,732	1.83	4,444	1.7
11	23,831	9.2	20,690	8.0	95	4.0	699	28.5	15,682	6.1	5,089	1.96	3,141	1.2
12	23,997	9.2	20,233	7.8	78	3.3	694	28.1	15,781	6.1	5,403	2.08	3,763	1.4
13	23,364	9.0	20,027	7.7	60	2.6	698	29.0	15,775	6.1	5,903	2.27	3,336	1.3
14	22,859	8.8	20,320	7.8	68	3.0	702	29.8	14,899	5.7	5,922	2.28	2,539	1.2
15	22,371	8.6	20,669	8.0	67	3.0	664	28.8	14,478	5.6	5,612	2.16	1,702	0.7
16	22,066	8.5	21,126	8.1	63	2.9	721	31.6	14,127	5.4	5,408	2.08	940	0.4
17	21,560	8.3	22,134	8.5	54	2.5	600	27.1	14,030	5.4	5,116	1.97	△ 574	△ 0.2
18	22,100	8.5	22,419	8.6	48	2.2	559	24.7	14,477	5.6	5,091	1.96	△ 319	△ 0.1
19	21,597	8.3	22,619	8.7	51	2.4	521	23.6	13,978	5.4	4,962	1.92	△ 1,022	△ 0.4
20	21,842	8.4	23,015	8.9	54	2.5	507	22.7	14,239	5.5	4,877	1.89	△ 1,173	△ 0.5
21	21,058	8.2	23,191	9.0	44	2.1	432	20.1	13,640	5.3	5,054	1.96	△ 2,133	△ 0.8
22	21,234	8.2	23,714	9.1	52	2.4	482	22.2	13,664	5.3	4,964	1.91	△ 2,480	△ 1.0
23	20,707	8.0	24,732	9.5	40	1.9	476	22.5	12,901	5.0	4,713	1.82	△ 4,025	△ 1.6

注 平成23年は概数である。